

平成 30 年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（但馬分科会）  
会議録（要旨）

日 時	平成 30 年 10 月 5 日（金） 但馬分科会 14:00 ～ 15:00
場 所	豊岡市役所 3 階 庁議室
出席者	但馬分科会 9 名中 6 名
欠席者	但馬分科会（香美町観光連絡協議会長、新温泉町商工会、全但バス株式会社）
事務局	豊岡市（政策調整部長、政策調整課長、政策調整課課長補佐、政策調整係長、政策調整係主任）
関係市町	養父市（企画政策課） 朝来市（総合政策課） 香美町（企画課） 新温泉町（企画課）
オブザーバー	兵庫県企画県民部市町振興課 職員

◎協議

分科会長	ここから私の方で進行させていただきます。よろしくお願ひします。事務局からこれまでの取組状況について説明をお願いします。
事務局 (委員)	<説明> 【定住自立圏の取組内容の進捗状況】 防災力の向上の未実施というのは、どういう理由でこれまで一度もされなかったのですか？
事務局	取組といたしまして、防災体制の強化や物資の備蓄等に努め情報連携を積極的に行う、というようなことを取組んでいこうということなのですが、今の段階ではそれぞれの市町が防災力を高めているという状況で、お互い連携して防災訓練をするということまで、話が出来上がっていないという状況です。
(委員)	今年の場合でしたら、県の防災訓練が但馬でありましたが、その機会などを使って、個々で、1対1の組み合わせではなく県の訓練なども活用して、そういう機会
事務局	で合同訓練を行うということで、今はやっていると聞いております。
(委員)	八鹿や養父も入っているのですか？
事務局	今年津波訓練をしたので、確か香美町であったはずですし、八鹿でされたときもあります。県の訓練が拠点施設でそれぞれごとに行われている。そういう機会には相互連絡調整も取られていると聞いています。
分科会長	広域でやる大きいのはしていないのですね。県がやるのと合同にするようなことは？
(委員)	手元が回らない。そちらになかなか取り組めないというか、県は県でやるけれど。
事務局	もともと兵庫県下では、兵庫県を中心として各市町が個々でそれぞれの協定書を交わしておりまして、お互いに災害時にはいろいろな物資を提供したり、援助をしましょうということを基本に但馬定住自立圏でも、そこをうまく活用しながら広域災害のために訓練しましょうということなのですが、先ほど部長が申しましたとお

り、まずはそれぞれの自治体における訓練が中心になっているということです。

(委員) 成果指標の捉え方を見直すとかしないと、このままたぶん未実施でいくよね。安心安全という面でも、もっと他の切り口もあろうかと思うが。

事務局 定住自立圏自体が共同で何もかもやるということが中心ではなく、それぞれのまちのやり方を総合したものが、ある意味共同と言いますか、連携と言いますか、そういったことの見方もできるような制度になっているようですので、今ご指摘を受けましたことも踏まえて考えさせていただきます。

分科会長 他に無いようでしたら次に進みたいと思います。続きまして、(2)共生ビジョンの変更についてです。共生ビジョンの変更にあたっては、この懇談会が協議・懇談の場となっており、この場での検討を経る必要があります。忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局 (委員) <説明> 【共生ビジョンの変更について】

1 ページ 2 (4) 中心市の都市機能の集積状況のところ、全但バスさんの特急バスが削除されていますけれども、城崎⇄姫路がなくなったから城崎⇄東京のバスをやっていたらっしゃるのではなかったですか？

それともう1点、4 ページ。私のところは但馬空港推進協議会の事務局をしておりますのですが、目標値が37年度70%としてあるのですが、これは飛行機が変わったけれども70%ということ、そのままということなのですね？私どものほう、推進協議会でも、一応目標値を持っているのですが、そちらのほうは今の30年度の目標値は70ではなく60というかたちで目標値をとっている。こちらは但馬定住自立圏ということでの目標ということで理解したらよろしいですか。

事務局 まず、但馬空港のほうですが、担当課と確認したのですがけれども、あくまでも搭乗率70%を目指すのだということで、このビジョンでの目標値はそのまま据え置きとさせていただきます。

事務局 (委員) 特急バスについては、載せるべきかどうか一度確認をさせていただきます。

出合いの機会というのは、現状値が修正してあるのですが、成果というのは、交流数の増加により定住人口を増やすこと、がここにくるのですが、指標にすると非常にプレッシャーがかかる。実際の内々の手元の数値としてはここで結婚が成立したというようなところは把握しておられますか？

事務局 イベントをして何人集まったか、そこで何組カップルができたというところまでは把握していますが、その後、結婚したのかどうかまでは今のところ数字は把握しておりません。

分科会長 結婚相談を社協で統括しているのですが、そんなには多くはないですが成立している部分もあります。率はかなり低いと思います。

(委員) 確認ですが2ページの但馬こうのとり周産期医療センター機能充実のところ、事業費のところですが、新温泉町さんがなかったのですが、これはもともと入っていないのですか。

事務局 これは、実際のところは負担をされているところだと思います。定住自立圏の協定として、その部分の協定がなされておられませんので、事業費はあえてそこは記載しておりません。

(委員)  
事務局

専門職大学の内容をもう少し詳しくお願いします。

今の想定でございますが、開学は平成33年、2021年4月を目標にしております。今のところ学校名は仮称ではございますが、国際観光芸術専門職大学ということで、4年制の専門職大学です。文部科学省が新しく制度設計をいたしました。場所をご存知だと思いますが、旧さとうの跡地、駅から見ていただいてJRで左手、豊岡から八鹿のほうに向かって左手ということになります。あちらを予定しております。学部学科は今のところ仮称ではございますが、文化観光創造学部文化観光創造学科の1学部1学科ということで予定されています。入学定員は各年次80名、40名の2クラスというふうな想定です。4学年で320名規模ということで聞いております。現在、学長候補者は劇作家の平田オリザさんが予定されております。

学校の特徴と言いますのは、あくまでも観光と芸術分野に特化した授業創造をしていくということで、特にコミュニケーション能力、大学の進学、入試などにもコミュニケーション能力が必要だということもおっしゃっておられまして、その辺を身につける。県のほうでは9月14日まで基本構想のパブリックコメントをさせていただきました。来年の10月には設置認可を受け、32年、2020年8月には設置認可が受けられるだろうという、そういう目標で、あくまでも33年4月の開学スケジュールに向けて県と市で進めようとしています。

市のほうも旧さとうの跡地を買うための予算を9月議会ですすでにお認めをいただいております。予算的には5億2500万円。前の店舗をさとうさんが撤去をされ、更地になった段階で豊岡市が購入し、建設場所として県に無償でお貸しをするというかたちで準備を進めることにいたしております。現在、明らかになっています内容としてはこれぐらいです。

副分科会長  
事務局

この5億2500万円というのは、用地買収の費用だけですね。

そうです。設立そのものは県のほうが設置していくと。まだ県立でやるのか、県立学校法人というかたちになるのか、県のほうで調整中でございます。

副分科会長  
事務局

狭いのでは？

あそこで1万平米ほどです。その向かい側に4千平米ほどの市有地がございます。そちらのほうの市有地もお貸しする予定です。そちらのほうには学生寮を。大学の趣旨としては、大学1年次は全寮制にしたいと。1年間は寮に入られたほうが出される親御さん方も安心して子どもを送り出せるだろうということで、この頃そういうケースの大学が結構多いようでございますので、想定では1年次は全寮制、2年次以降は民間のアパートであるとか、自宅からもし通学される方はそのようにということです。

(委員)

文化観光創造というのは、全国的には珍しいですか？あまり競合するところはないですか？

事務局

あまり競合するところがないと思います。競争相手が観光学部をお持ちの大学はあるのですけれども、やはり専門職として、現場に立てる人間を育てるのだろうと思います。結果的に珍しい、あまり多く競合するところはないだろうと思います。

副分科会長  
事務局

4年制ですか？

4年制です。この辺ですと、いちばん近いところが公立大学でいいかと、福知

山公立大学。あとは鳥取大学、鳥取環境大学などがありますが、どうしても大学空白地ということになっています。なんとか地方創生ということで、若い方が学業のために遠くに行かなくてもという、その辺の効果も期待できます。

副分科会長  
事務局

実習とか体験を重視するとか。

観光であればインターンシップというかたちで、例えばこの辺の観光業者の方々に現場実体験を積んでいただくという、そういうカリキュラムを組まれる予定と聞いております。そうなりますと、例えば豊岡、城崎であろうが湯村であろうが和田山であろうが、実体験ができる場所というのが地元の職場が多数ございますので、そういうところから実体験、インターンシップで行かれた方々が今度は但馬域内に就職されれば、もしくは起業されればいいと、そういう仕組みで観光というのが1つのジャンルでいけるのかなと、そういう考え方です。

副分科会長

11 ページで、医師の修学資金貸与事業がありますが、これは豊岡と朝来市が拠出して、地元出身の医学生に修学資金を貸与するということになっているのですが、他の但馬の市町も利用できるのですか？

事務局

こちらの制度は豊岡病院組合の医師確保策として、豊岡病院で貸付した後、修学をされて、豊岡病院にお帰りになった場合は返済免除の部分が出てくるという制度です。豊岡病院は朝来市と豊岡市で、設置している一部事務組合ということで、この2市が費用負担をしています。

他の但馬の市町は協定がなされていません。

分科会長

それでは意見交換となっておりますが、みなさん各分野から選出いただいています。その分野の内容でも、それ以外でもいいですが、但馬の定住人口増加に向けた内容、お考えがありましたらお話しいただければと思います。将来こういった取組が必要だとお考えのことを話していただければと思います。

(委員)

別に意見とかそういうものではないのですが、10代、20代の子どもさんを持っておられる親御さんの考え方というか、姿勢というか、そういうところをもう少し考えてほしいなと思うことがあります。それは、今おっしゃった、但馬に帰ってきて働くところがないから、親の口から「帰ってこなくてもいい」と言う、これは自己否定につながると思います。但馬に生まれ育ち、誇りを持って暮らしているはずなのに、その誇りを自分からそのアイデンティティーを否定するような言葉になってしまう。そんな言葉は言わないように、やはり自分の生き様を、後ろ姿で見せるというのはいかがでしょうかと思いますが、働くところがないから帰ってこなくてもいいというようなことは言わないように、もっと但馬のことを大事に、自分が生きてきているのだと、そういう気持ちはわかってくれというような、そういうことを伝えていく、訴えていく、判断は本人がする部分があるのですが、いったん出て行って、また帰ってくることももちろんありますし、少なくともそのような働くところがないから帰って来なくていいということを言葉に出すというのは、但馬のアイデンティティー、自分が生まれ育ってきたアイデンティティーを否定するような言葉だと思うので、それはやめるべきだと思います。そういう言葉をたまに聞くものですから、それはやはりなしにしたいなと思います。

(委員)

人を増やすといえば移住促進というところではがんばって各市町、県のほうもや

っていらっしやる。私ども、ふるさとづくり協会のほうで県民局のほうから委託を受けて、先日は空き家だけを見て回るようなツアーをやりました。9人の方がお越しいただいて、5組のご夫婦とかカップルの方々、結構年配の方が多くて、意外と人気というか、関心を持って見ておられたのが竹田の町なかの古民家。あそこの京町屋のような細長い空き家がありますけれども、古い明治時代の建物を昭和に増築、さらに増築というふうなことで、私はまだ全然中が片付いていないときに見に行つて、ここを見せるのか、大丈夫かと思ったのですが、掃除していただいて、それなりにきれいになって灯りもつけてあります。ゲストハウスというか民宿だとか、自分で衣装関係の事業をしたいということで探しているという大阪の方々がそこに関心を持っておられました。竹田のまちの中にはそういう事業を起こしていらっしやる、起業されている方は結構おられます。そういうところを各市町もがんばってやっておられます。

分科会長

どこも空き家対策は問題なのでしょうけれども、私、出石なんですけれども、貸してあげたらいいのに、いつまでも放ったらかして空き家になっているにもかかわらず、なかなか貸さない。

事務局

地域おこし協力隊で来られる方々が帰らずにそのまま残っていただけるとありがたい。こちらのほうで結婚され、また地域おこし協力隊を3年間すまされた後もその地域に居住をされる。結構その3年間の間にできた人づき合いが自分たちにとって貴重なものとおっしゃって、古民家を買われたり、起業に向けての補助金等も各市町とも用意されていたりもします。豊岡であれば旧市町単位すべての場所に協力隊が入られています。なかなか効果的な事業にもなっています。その方々もやはり空き家をビジネスとして、ビジネスモデルに組み立てるということも考えておられます。ただあとは宅建業者さんとの協力関係を上手に作っていくというのが必要かなと思います。

分科会長

他に無いようでしたら次に進みます。本日、兵庫県市町振興課からお越しいただいておりますので、ご意見等がありましたら、よろしくお願いします。

縣市町振興課

失礼します。いろいろと議論をお聞かせいただいて、そのご意見の中で、ビジョンの中でも目標を達成しているものというのも非常に多いと、いろいろな地域活動の定住自立圏等の懇談会場を見させていただいているのですが、なかなか定住自立圏の取組というのは住民の方に見えてきていないというのが底流にあると思います。ここは特に専門職大学など新聞とかで取り上げていただいているような記事もあるのですが、実際のドクターカーでこれだけ活用されているであったりとか、先ほど防災のお話もありましたが、安全安心な生活ができるというPRのためには未実施であればなかなかというふうなご指摘もあったと思います。そういうことといかに関係を、この定住自立圏の中でどういう取組でやっているのかということをお後住民の方にどう知らせていくのかというのが1つの今後の取組で、ビジョンについては毎日毎日こうやって見直しをしていかれている、その成果というのをどう見せていくのかというのが今後の1つの、但馬だけではなくて他の自立圏もそうですが、PRしていくことが必要になってくるのかなと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

分科会長

特にご意見がなければ、これで協議・意見交換を終了とさせていただきます。